

令和7年度小学校教科担任制実施報告書(高学年型)

学校名
東広島市立御園宇小学校

1 学校の概要

(1) 学校の学級数

	通常学級							特別支援学級	合計
	1年	2年	3年	4年	5年	6年	計		
学級数	3	3	3	3	3	2	17	4	21

2 加配教員が専科指導を行う教科及び週当たりの担当授業時数

(1) 第5、6学年の指定教科

指導教科名	指導学年	指導学級数	1学級当たり時数(週)	授業時数(週)	兼務校での実施
理科	6	2	3	6	
理科	5	3	3	9	
体育	6	2	2.6	5.2	
体育	5	2	2.6	5.2	

授業時数 計 25.4 (a)

(2) その他

指導教科等名	指導学年	指導学級数	1学級当たり時数(週)	授業時数(週)	兼務校での実施
				0	

授業時数 計 0 (b)

授業時数 合計 25.4 (a)+(b)

3 教科担任制推進教員を配置した授業計画

教科等	国語	書写	社会	算数	理科	音楽	図工	家庭	体育	外国語	道徳	総合	特別活動
週当たり標準授業時数	5		3	5	3	1.4	1.4	1.6	2.6	2	1	2	1
6年 1組 (担任: A)	B	A	A	A	推進	専科	A	専科	推進	A	A	A	A
6年 2組 (担任: B)	B	B	B	A	推進	専科	B	専科	推進	B	B	B	B
教科等	国語	書写	社会	算数	理科	音楽	図工	家庭	体育	外国語	道徳	総合	特別活動
週当たり標準授業時数	5		2.9	5	3	1.4	1.4	1.7	2.6	2	1	2	1
5年 1組 (担任: C)	D	D	E	C	推進	専科	E	専科	推進	C	C	C	C
5年 2組 (担任: D)	D	D	E	C	推進	専科	E	専科	推進	D	D	D	D
5年 3組 (担任: E)	D	D	E	C	推進	専科	E	専科	E	E	E	E	E

4 高学年担任が指導を行う教科等及び週当たり授業時数

学年・学級	児童数(人)	担任	担任する学級以外の授業時数(週当たり)				担任する学級の授業時数(d)	授業時数の合計(c)+(d)
			指導学年・学級	教科等名	時数	時数計(c)		
6-1	35	A	6-2	算数	5	5	16.4	21.4
6-2	34	B	6-1	国語	4	4	15.4	19.4
5-1	28	C	5-2	算数	5	10	11	21
			5-3	算数	5			
5-2	26	D	5-1	国語	4	10	11	21
			5-1	書写	1			
			5-3	国語	4			
			5-3	書写	1			
5-3	28	E	5-1	社会	2.9	8.6	12.9	21.5
			5-1	図工	1.4			
			5-2	社会	2.9			
			5-2	図工	1.4			

5 成果と課題

(①授業の質の向上、②多面的な児童理解、③小・中学校の円滑な接続、④教師の負担軽減、⑤その他)

〈効果のあった取組〉	
①	それぞれの教科で学年を越えて連携を取り、系統的に指導を行った。 児童に、分かる・できるを感じさせることができるように、単元の系統性を意識した体験的な授業を展開した。 教科担任推進教員が専門性を発揮した教材研究に基づく授業を実施した。 第5学年の理科「ふりこの性質」において単元内自由進度学習を取り入れ、「個別最適な学び」の視点を取り入れた授業を展開することができた。
②	担任以外の教員が関わり、情報共有を行った。
③	授業交換により、複数の教員が授業を担当することで、中学校での教科担任制のイメージを持たせることができた。
④	学年教職員全体で児童の指導や教科指導を連携して行った。 行事等で時間割変更があったり、時数の調整が必要であったりするため授業時数の確保に向けて担任との連携を密に行った。
⑤	参観日に各教科担任の授業を保護者に公開し、教科担任制への理解を深めた。

〈成果〉	
①	〈児童アンケート〉 「教科担任制になってよかった」 肯定的回答 94% 「教科担任制の授業が楽しみ」 肯定的回答 93% 「勉強の内容がよくわかるようになった」 肯定的回答 91% 〈理科の単元末テスト〉 正答率 89.7% 〈第6学年 新体力テスト 8種目〉 男子4種目、女子5種目 全国平均を超えることができた。 〈第5学年理科単元内自由進度学習〉 「授業がよくわかった」 肯定的回答 95% 「また自由進度学習がしたい」 肯定的回答 93%
②	多面的な児童理解につながり、効果的な指導につながった。
③	いろいろな教職員と関わることで、中学校に向けての心構えを育てるよい機会となった。
④	学級業務や教材研究にかける時間が増加した。また、補教や出張の際にも教職員が学年を越えて連携し、連絡を密に行うことでお互いに助け合い、協力することができた。
⑤	学年全体でよい雰囲気を作ることができた。学年部で児童の学びを支えていることを伝えることができた。

〈課題〉	
①	学年で同じ教科の指導者が一人しかいないので、教材研究の際に工夫がいる。
②	教科によって授業をする教員が入れ替わるので、児童についての連携が不十分な面が見られた。
③	週案の作成や調整に時間がかかったり、時間割変更ができなかったり、自分の学級の時間数が少なくなったりするなどの課題がみられた。

〈対策〉	
①	他学年やこれまでの教科担任制の経験者など学年部を越えて研究を進める。
②	気になる児童については、引継や連携をしっかりと行うとともに、学級の様子や雰囲気についてもこれまで以上に学年の枠を超えて連携を行うようにしたい。
③	運動会や学習発表会に向けての練習などではグラウンドや体育館の使用など変更を伴う場合がある。教職員の臨機応変な対応が必要であるため、これからもしっかりと連携を取りつつ、児童の学力向上に努めたい。